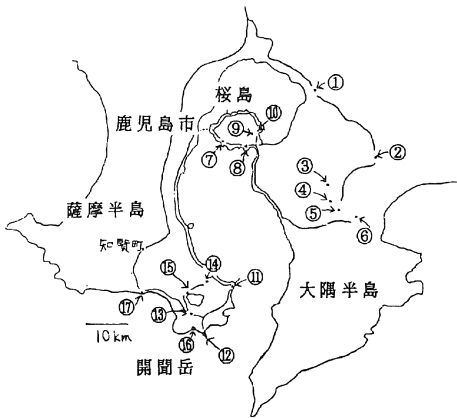


## 南九州の火山見学

人吉第一中学校 村本雄一郎

標記の巡検会が、平成6年8月1～3日の2泊3日の日程で実施された。案内は横山勝三先生、渡辺一徳先生、参加者は24名。この巡検会は、一昨年行われる予定であったが、豪雨による鹿児島県の大災害のため今回実施された。

車6台に分乗して8：30分に熊大教養部前を出発、途中休憩を挟み、牧之原展望所（地点①）まで直行した。昼食の後、始良カルデラについての説明を聞き、今から約2万2千年前に噴火してできた始良カルデラの地形を眺めた。展望所を出発。始良カルデラより噴出した入戸火砕流堆積物（シラス）でできた笠野原台地（平坦なシラス台地）を南下



巡検会ルート

しながら見学地を回った。大鳥峡（地点②）へ行く途中、国道沿いにあるボラ塚（畑に適さないボラ；軽石を開墾するときに3～4m堤防状に積んだもの）を見学。大鳥峡では、溶結した入戸火砕流堆積物を見学し、穴観音へと進む（地点③）。穴観音では、阿多火砕流を不整合に覆う、大隅降下軽石（始良カルデラ噴出物の最初に噴出した堆積物で、噴出口は桜島付近）、それを整合に覆う入戸火砕流堆積物の露頭を見学した。新堀（地点④）では、笠野原台地の深井戸を見学。土持堀（つつもつぼい）と呼ばれるこの深井戸は、穴の直径90cm深さ64m、人力で掘られ、水汲みは牛力であったという。井戸の深さが極端なのは、この台地がシラス（下部は大隅降下軽石）のために水を通しやすく、堆積物が厚いためだそうである。今では水道の施設が整い、使われていないが昔はこのような深い井戸（最も深い井戸は83m）が数多く掘られていたということである。（写真1）

昭栄（地点⑤）では、シラス採取場を見学。大塚山付近（地点⑥）では、水成シラス（入戸火砕流の二次堆積物）、シラス、大隅降下軽石、四万十層群の露頭を見学し、車窓から臼状になっているシラスドリーネを見ながら笠野原台地を後にする。垂水市を抜け、宿泊地桜島荘（桜島）へ到着したのは6:30を過



写真1 シラス台地の深井戸（看板裏側）

ぎていた。

二日目、午前中は宿泊地より桜島を一周する。野尻川（地点⑦）。ここでは、橋より、野尻川を見学。雨が降ると土石流を起こすこの川は、上流にあるセンサーで土石流を知らせる装置があり、土石流を一気に海まで流すように河川改修が施されていた。有村展望所（地点⑧）。ここでは、大正溶岩とその二次溶岩流を観察。鍋山（地点⑨）。ここでは、軽石丘である鍋山や、また大正溶岩が流れたときにできた溶岩堤防、南岳や鍋山、権現山等のガリー侵食を遠望した。黒神（地点⑩）。ここでは、埋没した鳥居を見学（写真2）。

このあと、北側を回りフェリーで鹿児島市へ渡り一路指宿方面へ南下する。魚見岳（地点



写真2 埋没した鳥居

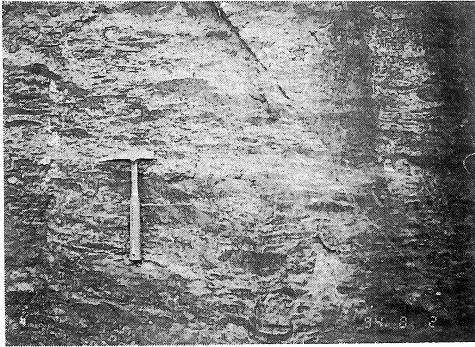


写真3 溶結降下火砕岩の露頭

⑪). ここでは、レンズ状に溶結した降下火砕岩を観察、採集する。(写真3)

長崎鼻(地点⑫). ここでは、レンズがある流紋岩の観察. 赤水岳の溶結火砕岩の説明を受けた. 鏡池(地点⑬). ここでは、水蒸気爆発でできた鏡池を見学. また、鏡池近くの露頭で、火山豆石を含む池田火砕流に先立つサージ堆積物を観察した. ここではクロスラミナが観察できた. 幸屋(地点⑭). ここでは、池田火砕流堆積物、幸屋火砕流堆積物、入戸火砕流堆積物の見られる露頭を観察した. 入戸火砕流堆積物中の吹きぬけパイプ構造も観察できた. 池田湖を通り新指宿ホテルへ到着. 三日目、池田湖(地点⑮). ここでは池田湖を観察し、鍋島岳のドームと地滑りを遠望. 川尻(地点⑯). 国民宿舎開聞荘横の海岸(写真4)で、オリビンサンドの採集. 水成川番所鼻公園(地点⑰). ここでは溶結

凝灰岩(阿多火砕流堆積物)の環状岩礁を見学した. その後、知覧町の特攻基地跡で休憩をし、高速道経由で熊大へ帰着した. この巡検会では、横山勝三先生、渡辺一徳先生には懇切丁寧な説明をしていただきありがとうございました.



写真4 ここでカンラン石採集.  
(中央は開聞岳)